

スマトラ島西方沖地震津波被害調査



沿岸海洋研究部 主任研究官 熊谷 兼太郎

(キーワード) 津波、被害調査、インドネシア、ムンタワイ諸島、離島災害

1. はじめに

2010年10月25日23時42分（日本時間、現地では同21時42分）、インドネシア・スマトラ島西方沖でM7.7の地震が発生し、震源近傍のムンタワイ諸島を中心として津波被害が発生した（図-1）。同年11月10日～13日、国総研と独立行政法人港湾空港技術研究所は合同調査チームとしてインドネシア海洋水産省等とともに現地において被害調査を行ったので報告する。

2. 調査内容と主な調査結果

ムンタワイ諸島のうち北パガイ島及び南パガイ島において、津波の痕跡を測量することにより到達した津波の高さを明らかにするとともに、住民の聞き取りにより津波の浸水状況、避難状況等を把握した。なお、現地への交通手段は通常はスマトラ島本土からフェリー（所要約10時

間）のみで被災により途絶していたが、インドネシア側の協力により渡航できた。また、携帯電話の使用も困難な状況であった。

北パガイ島及び南パガイ島の津波は概ね約6mの高さであり、レンガ造家屋の全壊等の建物被害が発生していた。津波の高さは一部で7～8mに達した（図-2）。また、住民同士の避難呼びかけの有無によって集落ごとに人的被害の規模が大きく変化したこと等が分かった。



図-1 ムンタワイ諸島の位置



写真-1 痕跡高の測定（白線位置が痕跡高）

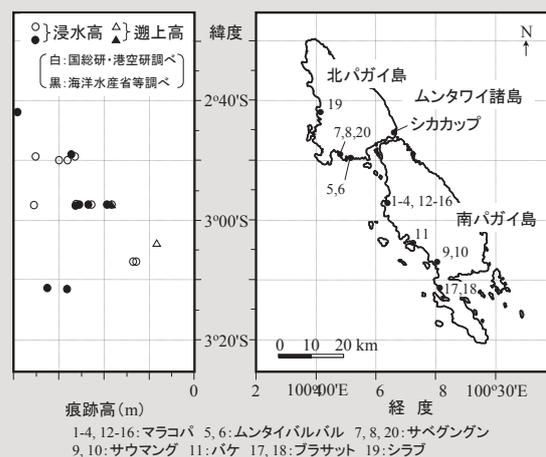


図-2 痕跡高の分布

3. おわりに

調査の対象地域は、インドネシアのなかで離島である。交通手段、通信等がほぼ途絶された状況で調査を行い、離島災害における復旧の物資補給、情報伝達の困難さを体感した。わが国の離島で地震災害が発生した場合も同様のリスクがある。ここに、困難な状況での調査を支援して頂いた各位にお礼申し上げる。

【参考文献】

富田孝史・有川太郎・熊谷兼太郎・辰巳大介・廉慶善：2010年ムンタワイ地震津波に関する現地被害調査，港湾空港技術研究所資料，2011。